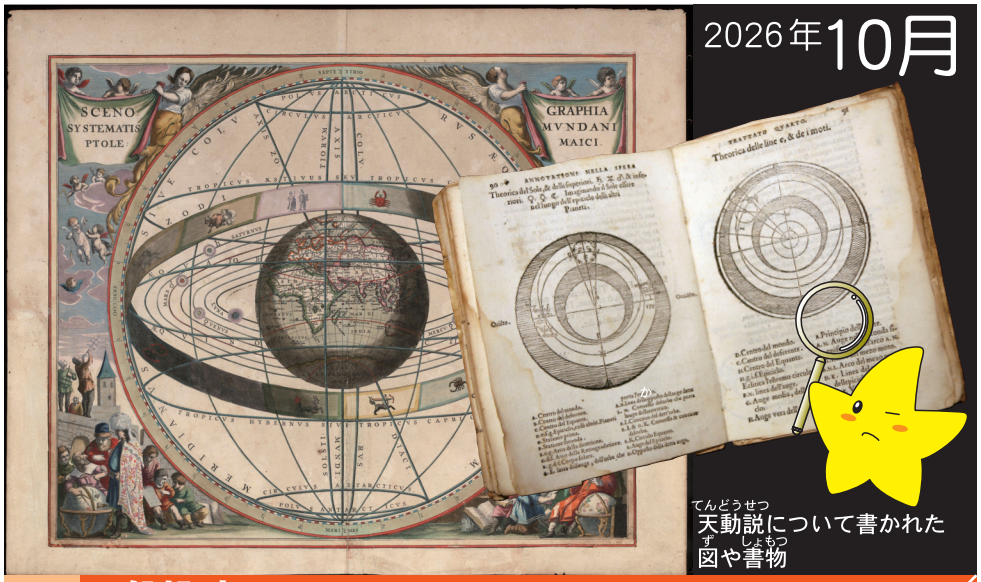
久喜☆プラネタリウム

星空だより

普及版

2026年10月



一般投映

久喜プラネタリウム総選挙！2026

今夜の星空＋テーマ番組「テ。－天動説と地動説－」

平成18年度より続く毎月変わるテーマ番組。10・11月は過去番組への人気投票「久喜プラネタリウム総選挙！」で選ばれた番組を再投映します！今回はなんと２番組が同率１位！10月は「テ。－天動説と地動説－」に決定!!

こども投映 土曜11:00 今夜の星空＋こども番組「うおざのおはなし」

10月 投映日

月	火	水	木	金	土	日
※12日（月・祝）はコンサート開催のためお休み。			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

●…16:30～ 一般投映
●…11:00～ こども投映、13:30～ 一般投映、15:30～ 一般投映
●…11:00～ 一般投映、13:30～ 一般投映、15:30～ 一般投映
●…11:00～ 一般投映、13:30～ 一般投映、15:30～ かいけつ！

※予定変更が生じる場合があります。最新情報はホームページ、X（旧ツイッター）等をご確認ください（右QRコード）。

ホームページ　X（ツイッター）

かいけつ！ぎもん・てんもん

小学４・６年生が理科で習う内容を中心に、毎月わかりやすく星のお話をします。楽しく学べて学校の授業にもとても役に立ちます！

今月は… 18日（日）15:30

「【復習】月の満ち欠け」（小６）

月はどうして形が変わるのだろう？太陽との位置関係は？実験を交えて確かめてみよう！

■イベントの予定

お月見飾り　～10月23日（金）

■今年の中秋の名月（十五夜のお月見）は9月25日（金）、後の名月（十三夜）は10月23日（金）です。プラネタリウム前ロビーにお月見の飾りつけをします。見にきてね！



ハロウィン飾り　～10月31日（土）

■ロビーやドーム内にハロウィンの飾りつけをします。記念撮影コーナーもできるかも！やっちゃいなよ！そんな偽物なんか!?





県民の日無料投映『こども投映デー』

11月14日（土・県民の日）　①11：00～　②13：30～　③15：30～

■ふだんは毎週土曜日11：00～の回でしか見られない、小さなお子さんむけの投映「こども投映」を特別公開！各回内容を変えて３本立てでお届けします！

※観覧無料　※各回投映開始30分前より券売窓口にて整理券を配布

新投映 無料投映『熟睡プラ寝たリウム』

11月23日（月・祝）　①11：00～　②13：30～　③15：30～

■日頃の勤労に感謝！プラネタリウムでぐっすり寝ましょう。

※観覧無料　※各回投映開始30分前より券売窓口にて整理券を配布

■11月の投映内容（予定）

今夜の星空＋テーマ番組「久喜プラネタリウム総選挙！2026」

土曜11:00 今夜の星空＋こども番組「うおざのおはなし」

15日（日）15:30

かいけつ！ぎもん・てんもん

「【復習】太陽と月の違い」（小6・発展）



■観覧料

大人（高校生～）300円
子ども（３歳～中学生）100円
団体（20名以上）大人250円、子ども80円
障がい者個人と介護者１名　無料
※要当該手帳提示
※「フレンズ」会員の方はご本人様のみ無料

久喜プラネタリウム
〒346-0022 埼玉県久喜市下早見 140
TEL：0480-21-1799　FAX：0480-23-6488

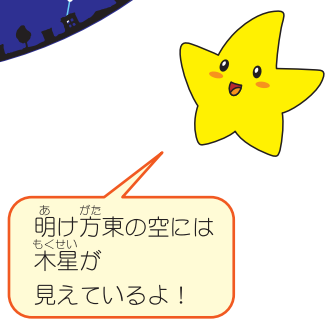
10月の星空

1日 21時ごろ
15日 20時ごろ
30日 19時ごろ



星図の使い方

①見たい方角を向きます。
②見たい方角を下にして星図を持ちます。
③そのまま頭の上にかざし、星空と見くらべます。



惑星

南東 土星…0等級。10/4に衝を迎えるためこれからが見頃。10/24には月と近づき並んでいる様子が見られる。
※水星…10/12に東方最大離角。日の入り頃の位置が低く見つけにくい。

主な1等星

西 ベガ［こと座］…かなり高く、明るく目立つ。たなばたの“おりひめぼし”。
南西 アルタイル［わし座］…かなり高い。たなばたの“ひこぼし”。
天頂 デネブ［はくちょう座］…尻尾の意。
南 フォーマルハウト［みなみのうお座］…低いが、図のように頭上高く昇った秋の四辺形（四角）から探すことができる。秋の星座ではただひとつの1等星で、秋のひとつ星、南のひとつ星などとも呼ばれる。

日の出

10月1日	5：35
15日	5：47
30日	6：01

日の入

10月1日	17：26
15日	17：07
30日	16：49

こよみ

10月3日	下弦
4日	土星が衝（太陽と真反対の位置に来るため一晩中見やすい）
8日	寒露
8～9日	10月りゅう座流星群
11日	新月
12日	水星が東方最大離角（夕方南西の空で太陽から最も離れるが今回は低く見つけにくい）
	スポーツの日
19日	上弦
21～22日	オリオン座流星群
23日	後の名月（十三夜） 霜降
24日	月と土星が接近（夕方東～翌日未明西の空）
26日	満月

地動説を唱えたのはコペルニクス？

実はコペルニクスの1800年ほど前、ギリシア・サモス島出身のアリスタルコスが既に地動説を唱えていました。

アリスタルコスは月食を観測し、月が地球の影の中を通る様子から、地球の直径は月の約3倍と見積もりました（実際は約4倍）。また、月が上弦・下弦の時、太陽と月と地球がほぼ直角三角形を作ると考え、その時、地球から見て太陽と月は約87°離れていると観測し、三角形の辺の比率から、太陽は月の約20倍離れていると計算しました。地球から見た太陽と月の見かけの直径はほぼ同じなので、実際の直径は地球からの距離に比例すると考え、太陽の大きさは月の約20倍、地球の約7倍と導き出します。そんな巨大な天体が地球を回っているのはおかしい、より大きな太陽の周りを地球が回っている方が自然だと考えたのです。

惜しいことに観測が不正確で、上弦・下弦の時、太陽と月は約89°50’離れているため、実際の太陽の大きさは月の約400倍、地球の約109倍と、予想より遥かに大きかったのですが、考え方は正しかったと言えます。

また恒星はとても遠いよその太陽で、地球が太陽を回っているならば生じるはずの恒星の見かけの位置の変化（年周視差）が観測されないのは恒星が遠すぎるからと考えました。年周視差の検出には望遠鏡が必要なので、これも的を射ていたわけです。古代ギリシアの人とは思えぬ先見性に脱帽…！